

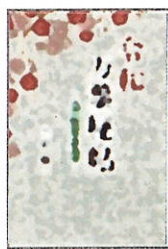


2019

本日のテーマ「昨年読んで面白かった本」

実施日：2020年1月26日

- 1 「動物たちが教えてくれた「良い生き物」になる方法」
サイ・モンゴメリー／著 古草秀子／訳 2019年
河出書房新社 【480.4】
人間以外の種に属する生き物について知ることは、あなたの魂を驚くほど成長させる。犬やエミュー、豚、ミス「ダコ」など著者の人生を大きく変化した動物たちとのエピソードが語りられています。読んでいて、本当に驚きがあると感じました。
- 2 「令和万葉秘帖／長屋王の変」 ました。
大杉耕一／著 2019年 郁朋社 【LNオ】
大宰府に、大伴旅人、山上憶良がいたとき、奈良の都では、なにがおきていたか。
梅花の宴には、隠された秋盛があった。
- 3 「そろそろ、からだにいいことを考えてみよう」
伊藤まさこ／著 2019年 朝日新聞出版 【498.5】
「半ダース介護／6人のおジジとおババお世話日記」
井上きみどり／著 2019年 集英社 【369.2】
私も著者もトシをとろ!? “そろそろ、そろそろ”と年齢をふまえて読んで実感。介護って、まだまだ先の話しと、思っていたが、突然やってくるかも…。予備知識もこの本でどうぞ!!
- 4 「十二国記シリーズ」長編8話13冊、短編2冊 続巻中。
小野不由美／著 1991年(初版)～ 新潮社 【YSNオ】
18年ぶりに長編の新刊が出て、2019年末は十二国記祭でした!! 未読の方は、まず「魔性の子」から刊行順に読んでいくことをおすすめします。初めて読むときは、ホラーですか、シリーズを読み進めた後にいろいろとこの本を読むと、印象がガラッと変わりますよ。
“昨年”どころか、今まで読んできた本で11月15日のおススメシリーズです。



←1991年の初版本
2012年の完全版もかっ!

- 5 「ラストレター」
岩井俊二／著 2018年 文藝春秋 【Nイ】
「ラブレター」
岩井俊二／著 1995年 角川書店 【Nイ】
“手紙”が中心のストーリー。どちらでも学校の図書室や公共の図書館などで読めます。2冊一緒に是非読んで欲しいです。映画もお勧めです。
- 6 「脳には妙なクセがある」
池谷裕二／著 2012年 扶桑社 【491.3】
小学生のクセ? = 月凶のクセ?
自分では無意識にしていること(クセ)が、月凶に反応して何らかの作用を(本と)いにおこなっているそうです。脳科学ワールド、目からウロコです!
- 7 「マハーバーラタ入門」
沖田瑞穂／著 2019年 勉誠出版 【929マ】
神の化身である5王子た5が活躍する、壮大なインド神話をのぞいてみてはいかがでしょうか。
- 8 「もぐささん」 1～5巻所蔵 (全10巻)
大竹利朋／著 2014年～ 集英社 【マ/材】
ステルス食い(=かかてこもり食ふこと)を授業中に堂々としているところよかった。食べ物への執念がすごい! 私もやってみたけど、バレソウで=わいである。
- 9 「おじさんのかさ」
佐野洋子／作・絵 1992年 講談社 【Eオ/ヨミク】
そとにいたら、かさがほんたいに「ふるから、さいごのところのおはなしのときにそとにいかなくていいとおもいました。
- 8 「わたしの名前は「本」」※未所蔵
ジョン・アガード／作 ニール・パッカー／画
2017年 フィルムアート社 【020.2】
文字がほれる以前から電子書籍までの“本”のこぼる“本”自身が語る、まさに“もかたり”はわかりやすく、イラストもあてて、2019年の一冊としました。

